

ダラザレックス®+ベルケイド®+デカドロン®

◆ 点滴に使用する薬と点滴時間

- 初回：7時間5分 • 2回目：4時間35分
- 3回目以降：3時間50分

使用する薬	外観	点滴時間
過敏症予防① アセトアミノフェン		ダラザレックス®開始の 30分前に内服
過敏症予防② ポララミン® ステロイド デカドロン 16.8mg		
ダラザレックス® 16mg/kg	 初回 2回目以降	<ul style="list-style-type: none"> • 初回 : 6時間30分 • 2回目 : 4時間 • 3回目以降 : 3時間15分

使用する薬	外観	点滴時間
ベルケイド® 1.3mg/m ²		5分

◆ 内服薬

薬の名前	用法用量、使用上の注意
デカドロン®錠 4mg 	<p>20mg/日</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1-3サイクル：day2, 4, 5, 9, 11, 12 • 4-8サイクル：day2, 4, 5, 9, 11, 12 <p>※1-3サイクルのday15、9サイクル以降のday1は 医師判断により実施</p>

- 薬の量は、副作用の程度などにより変更されることがあります。
- 点滴時間はあくまで目安であり、時間が前後することがあります。

◆ スケジュール

・ 1～3コース目

	1週目	2週目	3週目
ダラザレックス®	1日目	8日目	15日目
ベルケイド®	1・4日目	8・11日目	
デカドロン®	1日目：点滴 2・4・5日目：経口	8日目：点滴 9・11・12日目：経口	※15日目は 医師判断で実施

・ 4～8コース目

	1週目	2週目	3週目
ダラザレックス®	1日目		
ベルケイド®	1・4日目	8・11日目	
デカドロン®	1日目：点滴 2・4・5日目：経口	8日目：点滴 9・11・12日目：経口	

・ 9コース目以降

	1週目	2週目	3週目	4週目
ダラザレックス®	1日目			
デカドロン®	※1日目は 医師判断で実施			

- ・ 1～8コース目：21日間を1コースとして、治療を繰り返します。
- ・ 9コース目以降：28日間を1コースとして、治療を繰り返します。

◆ステロイドについて

- 内服の場合は、指示された服用方法と量を守り、自己判断で中断しないでください。

※急激な減量や中止は、発熱、吐き気、だるさ、血圧低下などの症状を引き起こすことがあります。

- 主な副作用は、感染症に対する抵抗力の低下、胃潰瘍です。
- その他、血糖や血圧の上昇、不眠、顔が丸く腫れるなどの副作用があります。
- それぞれの副作用に対して、予防や治療の薬を使用することがあります。

◆ 主な副作用

白血球減少

白血球が減少すると免疫力が低下し、風邪などの感染症にかかりやすくなります。

治療開始1～2週間後に白血球の値が最も低くなり、その後1～2週間かけて回復します。

うがい・手洗いなどの感染予防を心がけましょう。

37.5度を超える発熱時、医師からあらかじめ処方された薬がない方は、病院へご連絡ください。

赤血球減少

貧血になり、めまい、だるさ、動悸、息切れなどの症状があらわれます。治療開始2～4週間頃に低くなります。

必要に応じて、薬で治療したり輸血することがあります。

血小板減少

血液が固まりにくくなり、歯茎からの出血や鼻血が出やすくなります。治療開始1～2週間後に血小板の値が最も低くなり、その後1～2週間かけて回復します。

転倒やケガに注意してください。

必要に応じて、輸血することがあります。

【血液検査について】

副作用の確認のために、定期的な血液検査を行います。

◆ 点滴中

下記の赤字の症状があるときは、すぐに医療スタッフへお声かけください。

過敏反応（アレルギー）

寒気、吐き気、頭痛、めまい、発疹、息苦しい

治療開始1～2回目が起きやすいですが、治療を繰り返していても現れることがあります。

血管外漏出

点滴が漏れている、針を刺したところが痛い、熱っぽい、赤く腫れている、違和感がある

注射部位反応

注射した部分が赤くなる、かゆい、硬くなるなどの症状がでることがあります。

◆ 点滴終了後～1週間頃

便秘

お腹の動きが悪くなり、便が固くなったりお腹がはることがあります。食事や水分摂取、適度な運動でも改善しない場合、[下剤を使用](#)します。

発熱（薬剤熱）

白血球減少による感染症が引き起こす発熱以外に、薬の影響で一時的に熱が出る場合があります。

発疹

皮膚が赤くなる、かゆみが出る場合があります。

刺激の少ない肌着を着用しましょう。[塗り薬やかゆみ止めの内服薬を使用](#)することがあります。

[治療開始後数日以内に全身に発疹やかゆみが出る、目の粘膜や唇がただれる、発熱を伴う場合](#)などはすぐに病院へ連絡してください。

倦怠感（だるさ）

疲れやすい、気力がない、体が重いなどの症状で、日常生活に支障が出る場合は、診察時に主治医へご相談ください。

◆ 1～2週間頃

下痢

普段より1日4回以上多く排便がある、または1回でも水のような便があるときは、**下痢止めを使用**することがあります。

強い腹痛や発熱を伴う場合、医師から処方された下痢止めで改善しない場合は、ご連絡ください。

口内炎

口の中がヒリヒリする、しみる、痛くなることがあります。

歯みがきやうがいで口の中を清潔に保ち、乾燥を防ぐことが大切です。また**うがい薬や塗り薬を使用**することがあります。

がまんできない、水分もとれないほどの口の中の痛みがある場合は、病院へご連絡ください。

◆ 蓄積性の副作用

末梢神経障害（手や足の感覚が鈍くなる、しびれ）

治療を長く続けると少しずつ悪化し、しびれや痛みが持続するようになります。治療を終えても回復に時間がかかります。

手先をうまく使えずボタンがかけづらい、転倒しやすいなど、**日常生活に支障が出る前に、診察時に医師に相談してください。**

浮腫

下半身がむくみやすくなります。予防にステロイドを使用することがあります。

色素沈着

皮膚に日焼けのようなしみができる、爪が黒ずむ

味覚障害

味を感じにくくなる、塩味を強く感じる、金属味がする、まずく感じるなど味覚に異常が出るがあります。

● その他の副作用

非常にまれな副作用ですが、万が一赤字の症状がある場合は、すぐに病院へご連絡ください。

間質性肺炎

たんが絡まない乾いた咳、息苦しい、発熱

心障害

定期的な心機能検査を行います。

足がむくむ、顔やまぶたが腫れぼったくなる、3日で2kg以上の体重増加がある、ちょっとした階段や坂で動悸や息切れを感じる

肝機能障害

定期的な血液検査を行います。

白目や皮膚が黄色くなる（黄疸）、ひどいだるさ

帯状疱疹

免疫力が低下すると、神経に潜んでいるウイルスが活発になり、帯状疱疹が起こることがあります。

帯状に赤い発疹や水ぶくれができる、ピリピリとした痛み

◆ 緊急時の連絡方法

困ったことがあったときは、下記にご連絡ください。

気持ち悪くて水分も摂れない
下痢が止まらない
37.5℃以上の発熱が続いている
薬の使用方法がわからない

など



診察券を用意する

代表：044-977-8111 に電話をかける

平日：8:30-17:00
土曜日：8:30-12:30

血液内科の
主治医または担当医

夜間帯・休診日
など左記以外の時間
血液内科の当直医

◆ 予約外受診の方法

病院本館正面玄関を入れて右手の
「②再診受付」または「予約外受付機」で手続きした後、
各診療科の外来でお待ちください。

※受付時間：平日8:30-11:30 土曜日8:30-11:00

- 生活上の注意については、別冊のパンフレットもご参照ください。
- ご不明な点がある場合は、遠慮なく医療スタッフにお尋ねください。

薬剤師